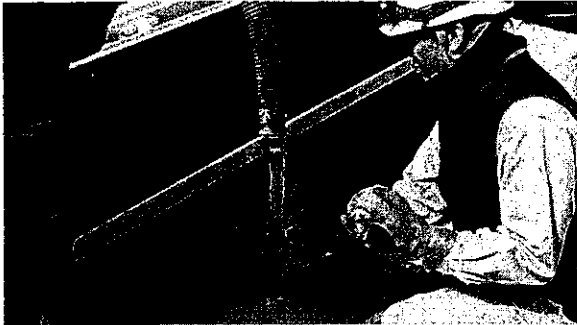


2018年(平成30年)3月29日

人口減地区でアイスピグ

大津市 藤野興業 管路維持管理へ活用



注入前のSISを確認



回収液には赤さびやシルコートが



林氏

今では約30人となっている。このため、管内流速が低下して水が滞留するほか、対象配水管の一部は布設から約40年が経過しており、赤水の発生が課題となっていた。

大津市企業局では、流速を早めて行う放水洗管による対応を年1回実施していたが、洗管後すぐに赤水が発生したこともあり、今回民間に業務委託を行った。

藤野興業(藤野正勝社長)は7日、大津市企業局から受託した配水管内洗浄業務で、アイスピグ(管内洗浄工法)による洗管を実施した。対象は同市石山内畑町に布設された配水管(ダクタイル鉄管、口径100mm×321mm、口径75mm×98mm)。山間地に位置する同地区では人口減少が進み、

藤野興業は、経年化が進んでいる管路でも安全性が高く、口径の劣化や曲がりにも追従するアイスピグ工法で洗管を実施した。口径75mm側から特殊アイスシャーベット(SIS)を2・2t管内に注入し、既設消火栓下のボール式補修弁を利用して回収した。排出された夾雑物には赤さびや剥離したシルコートが含まれており、洗管後の管内カメラ調査でも除去効果を確認できた。

大津市企業局維持管理課の林菅二氏は「水道事業者としてお客さまに水質の悪い水を給水することは許されない。この地区の管路更新には、見込まれる収入以上にコストがかかり、維持管理を工夫して、このような管路を可能な限り使用していくことが求められている」とし、洗管による延命化の必要性を指摘した。

その上で、アイスピグ工法は「人体に無害なSISを使用するため、水質面などについて安全性の懸念がなく洗管できる。今回、さびなどを除去できたので、次回の放水洗管時の状況も確認し、管路維持管理に生かしたい」としている。